

妊娠糖尿病のインスリン導入の有無における出生体重の変化

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 秋葉, 純也, 竹田, 純, 田中, 元基, 畠中, 美穂, 正岡, 駿, 安東, 瞳, 植木, 典和, 精, きぐな, 山本, 祐華, 板倉, 敦夫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004041

第45回日本女性栄養・代謝学会学術集会

<一般口演2>

妊娠糖尿病のインスリン導入の有無における出生体重の変化

1 順天堂大学医学部附属順天堂医院

秋葉 純也

竹田純¹、田中元基¹、畠中美穂¹、正岡駿¹、安東瞳¹、植木典和¹、精きぐな¹、山本祐華¹、板倉敦夫¹

【目的】

妊娠糖尿病 (GDM) の管理は食事療法から開始し目標とする血糖値が達成されない場合にはインスリン療法を行う。巨大児や新生児低血糖の予防が GDM 管理の目的であるが、日々の臨床では GDM 症例において介入した結果としてかえって低出生体重児である症例にも遭遇する。本研究ではインスリンの導入がなく現状の食事制限によって低出生体重児が発生している仮説の下、インスリンの導入により出生体重が増加するか否かを明らかにすることを目的とし検討を行った。

【方法】

2017年から2019年の3年間の期間のうち、当施設で正期産かつ単胎で分娩となった症例を診療録から抽出し、インスリンを使用したGDM群 (I群)、インスリンを使用しなかったGDM群 (D群) およびGDMのないコントロール群 (C群) に関して出生した児の体重を後方視的に検討した。

【結果】

I群ではD群と比較して平均出生体重が有意に重い傾向 (I群 3376 g vs. D群 3037g; $p < 0.05$) を認めた。さらにI群では低出生体重児を認めなかったが、C群における低出生体重児の割合は6%であるのに対しD群での低出生体重児の割合は11%と有意に低出生体重児の発生頻度が高かった ($p < 0.05$)。

【結論】

インスリンを使用せず、現状の食事制限で血糖管理を行った妊娠糖尿病では GDM のない妊娠の管理やインスリンを使用した GDM の管理と比べて栄養摂取量が不足し、低出生体重児が増加する可能性が示唆された。